

経営比較分析表（平成28年度決算）

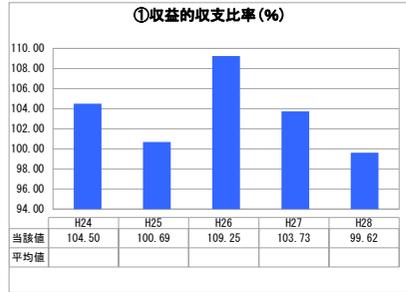
長野県 阿智村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	45.85	88.67	3,218

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,639	214.43	30.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,017	1.34	2,251.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

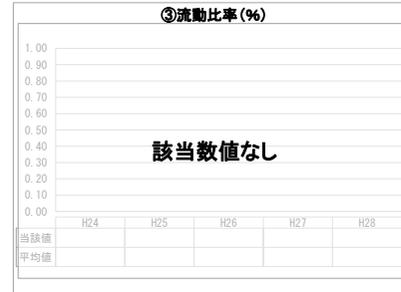
1. 経営の健全性・効率性



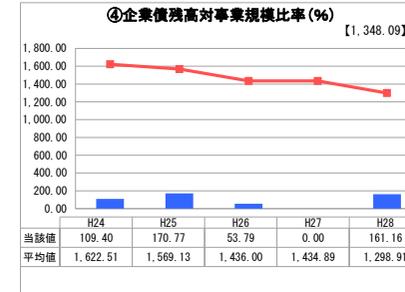
「単年度の収支」



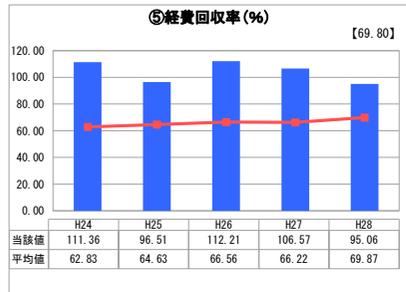
「累積欠損」



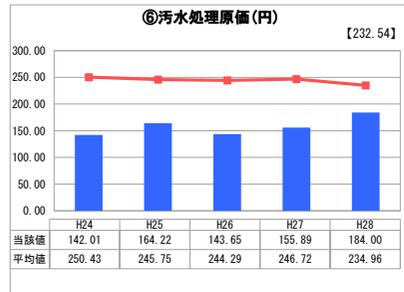
「支払能力」



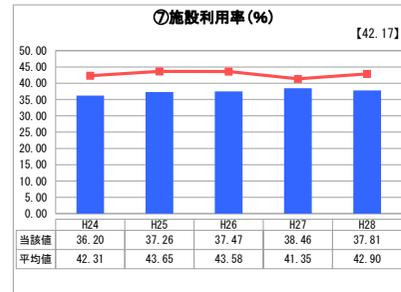
「債務残高」



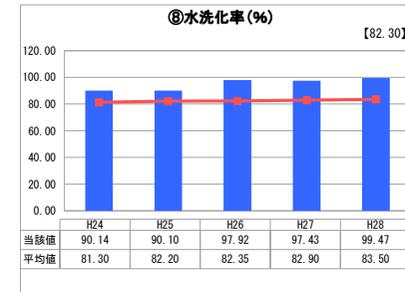
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

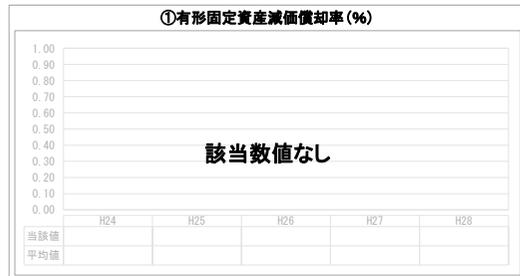


「施設の効率性」

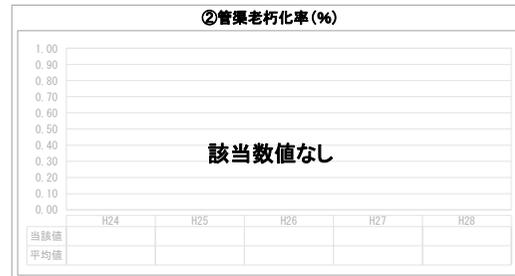


「使用料対象の捕捉」

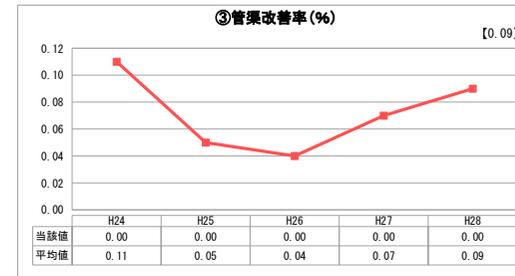
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

阿智村下水道事業の会計は現在、使用料収入で人件費や維持管理費等の運営費の全部と下水道施設を建設するときに借入れた地方債の償還費用の一部を賅っています。償還費用の不足分については一般会計から繰入を行い充当しています。

収益的収支比率について、近年は100%を超える数値で推移しています。H26年度は基金の運用利子収入が国債満期等で例年より多くなった関係で高い数値となっています。H28年度は前年度繰越金の一部を維持管理費の財源としたことで100%を下回っています。

料金改定を実施し平成28年4月使用分から新料金による使用料の徴収を実施しました。前年度比で6%程度料金収入が増加しましたが、平成28年度は経営戦略の策定事業を行いその経費の半額を一般会計から繰入れたことで経費回収率が低くなり汚水処理原価が上がっています。

平成9年に供用開始した昼神浄化センターの長寿命化計画を平成27年度に策定し、平成29年度～平成32年度で長寿命化事業を行います。

2. 老朽化の状況について

阿智村には下水道浄化センターが2施設あり、昼神浄化センターは平成9年度、会地浄化センターは平成13年度の供用開始となっています。現在、16年～20年が経過しており、昼神浄化センターでは耐用年数を超えた機器の更新時期を迎えています。

管渠については、それぞれの処理場と同じ頃の建設となっておりますが、耐腐食性の強い陶管及びハイセラミック管を使用していますので劣化による管渠の更新はまだ必要ないと考えています。

全体総括

今後は各施設の機器更新の費用が増えていくことが予想され、その財源の確保のため平成28年度に使用料金の改定を行いました。

平成29年度～平成32年度に行う長寿命化事業では昼神浄化センターの機器更新を国の補助金を利用して行います。

平成33年度以降は、ストックマネジメントを策定し下水道処理全体の将来的な維持管理費用の平準化を図ります。

平成28年度策定の経営戦略に基づき将来的な経費の平準化を図り、将来にわたって安定的に持続可能な運営を行ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。